

## 舞鶴市に新しい複合施設オープン！

京都府舞鶴市北吸にあった市立老人福祉センター「文庫山学園」の跡地に、09月14日(土)、複合商業施設「アティック」がオープンした。運営するアパレルのセレクト販売会社「ウッディーハウス」(本部・舞鶴市)は前日の13日に内覧会を開き、報道関係者などに事前に内部を公開した。舞鶴の新たな観光拠点として、年間売り上げ2億円以上を目指し、新しい観光拠点としたいと意気込む。

<解説>この文庫山学園は、京都府舞鶴市にあるランドマー



ク「舞鶴赤れんがパーク」に隣接する施設。美しい舞鶴湾を臨む高台に佇む当施設は、近くには舞鶴市役所 海上自衛隊などが建ち並ぶ「舞鶴のメインエリア」に位置する。元々艦艇の撮影スポットとして人気のあるこの旧文庫山施設のあった高台は、圧巻の海上自衛隊の艦艇が見える日本でも有数の絶景スポットです。舞台のある約100畳の大広間、バドミントンができる体育館、図書室、浴室があり、ダンスや絵画など20以上のサークル活動が盛んに行われてきた。市出身の実業家、河守浩さんの多額の寄付による基金の運用益で運営費の大半を賄い、利用料は入浴を含めて無料だった。舞鶴市は多世代交流施設「まなびあむ」に機能を移すとして、2021年05月に閉館としたが、多くの高齢者

がこれに反対して署名活動を展開した経緯がある。運営会社のウッディーハウス志摩幹一郎社長(53)によると、「アティック」は屋根裏部屋というみの「atick(アティック)」と、時計の針の音「tick tock(チックタック)」を掛け合わせた造語。赤れんがパーク近くの急な坂道を登ると、舞鶴湾の絶景が開けてくる絶好のロケーションを生かした施設で、特別な時間を味わってほしいとの願いを込めたという。文庫山学園の建物を同社が改修した。敷地面積は5975平方メートル、建物は1940平方メートル。アパレルやアウトドアショップを



はじめ、土産店、カフェ、サウナ、ドッグラン、展望台などを併設した。京阪神を中心にした集客を目指す。志摩社長によると、同社は赤れんがパーク官民連携型賑わい拠点創出事業に取り組んでおり、アティックの展開はその一環。「アティックでしか体験できないサービスを提供し、新たな観光スポットにしたい」と話した。人口減少や過疎化が進む地方都市で、このような大型投資が行われ、新しいランドマーク拠点ができるのは珍しい。集客力がどの程度あり、どれくらい地方の活性化につながるか、大注目のプロジェクトだ。